

は やま	校訓：敬愛・探究・勤労 教育目標：豊かな情操をもち、自立的に生きる生徒の育成 文責：柴田町立船迫中学校長 曾根 秀輝
------	--

感動の郡陸上大会！～選手、応援団長、担当の先生方から～

6月12日（水）に行われた郡陸上・水泳大会激励会では、陸上選手に対して、「今、もっている力を出し切ってください。勝ち負けは問いません。」「皆さんはまさに『迫中代表』、『チーム迫中』なのですから、『迫中の誇り』『迫中プライド』をもって、堂々と戦ってきてください。」「仲間が競技をしているときには、全力で応援してください。」と話しました。また、応援団幹部と、一般応援生徒たちに、「皆さんの大声援が選手の背中を押し、選手に大きな力を与えますので、是非、精一杯の応援をお願いします。皆さんこそ、『チーム迫中』の第2の選手です。」と話しました。そして、全校生徒に対して、「本校は全校生徒194人の、決して大きな学校ではありませんが、他の大人数の学校に負けないように、競技も、応援も、先生方と一緒に意地を見せましょう！」と話しました。

郡陸上大会当日は、選手一人一人が今もっている力を出し尽くしていましたし、選手同士の応援、応援団幹部・一般応援生徒による一体となった応援など、感動でいっぱいの陸上大会となりました。

特に、走幅跳の競技は本部席前で行われ、女子決勝に残った原田夢叶さんに競技中に話を聞くと、学校と競技場との違いをしっかりと分析しながら修正していることを聞くことができました。さらには、失敗して泣いていたり、上手く跳べて喜んでいたりしている周りの選手に影響されることなく、冷静に、しかも、前向きに取り組んだ結果、見事第1位に輝く瞬間に立ち会うことができました。

また、各学年の100M走チャンピオン3名を擁した女子共通4×100Mリレーの堂々たる勝ちっぷりは、まさに圧巻でした。

実際に競技をご覧になった保護者の皆様もいると思いますが、当日、選手や応援団長はどんなことを考えながら本番に臨んだのか、また、担当の先生方には本番までの取り組みや当日の感動エピソードなどを書いてもらいましたので、ご紹介します。

私は小4の時から陸上をやっていて、本番では、とてとてもいい応援もらい、自分の中ですごいパワーになり、良い結果を残すことができました。これから通信陸上と県中総体でもっといい成績が出るように頑張りたいです。

1年女子100M第1位 鈴木瑠々奈さん

予選3位通過し、決勝に臨みました。予選の組では1位だったものの、他組と合わせると3位でした。決勝では挽回したい気持ちでいっぱいでした。結果は1位でしたが、2位と0秒01の差でギリギリでしたが、勝てて良かったです。

2年女子100M第1位 佐藤琉菜さん

私はレーンに立った時、心臓がバクバクで緊張と不安でいっぱいでした。ですが、そんな時、仲間からの「頑張れ!!」という声援で力が湧き、今回の結果につながったと思います。本当にありがとうございました。

3年女子100M第1位 幕田里咲さん

私は去年もハードル走に出場し、今年は2回目の出場となりました。大会当日、競技の直前練習の時に歩数が合わなくてとても焦りました。ですが、仲間のみんなや先生方が「頑張れ、大丈夫だよ」と声をかけてくれたことが私の力になり、結果を残すことができました。応援ありがとうございました。

3年女子100MH第1位 新妻千穂さん

私は 1 本目、普段通りの 3 m 台で少し焦っていました。しかし、2 本目では跳ぶ助走の準備をしている時、迫中の選手たちが「夢叶頑張れ～！」と応援してくれて「頑張らないと！」と強く思い、2 本目からは自己ベストをどんどん更新することができました。なので、この優勝は仲間たちのおかげで掴めた結果だと思えます。

女子共通走幅跳 第 1 位 原田夢叶さん

本番当日はとても不安でした。フライングもせず、バトンパスもうまくいき、これまでの辛い練習の成果を出すことができたので、とても良かったです。自分の中で、2 年連続県大会出場が目標だったので、里咲先輩がゴールした時はとても嬉しかったし、感動しました。この結果をバネに県大会はもっと頑張れるように練習に取り組みたいです。

女子共通4×100Mリレー第 1 位 大友沙織さん

リレーは 100m の時よりも緊張していて、しかも、スタート位置が迫中応援席の前だったこともあり、頭の中が真っ白でした。でも、すごい先輩たちのために頑張ろうと頑張った結果が 1 位で、アンカーの先輩がゴールした瞬間、とても安心しました。今までで一番緊張したけど、楽しい大会でした。

女子共通4×100Mリレー第 1 位 鈴木瑠々奈さん

練習ではバトンをしっかりとつなぐことがあまりできずに大会に臨みました。私はバトンを真ん中の順位くらいでもらい、目の前にいた大河原中を抜こうと必死に走りました。本番ではしっかりとバトンもつなぐことができて嬉しかったし、何より 1 位だったので嬉しかったです。

女子共通4×100Mリレー第 1 位 佐藤琉菜さん

リレーでは 100m の時よりは緊張せず、良い気持ちでレーンに立つことができました。そして、バトンを貰った瞬間、「チームで 1 位になる！」という強い思いで走り抜くことができました。

女子共通4×100Mリレー第 1 位 幕田里咲さん

僕は共通 3000M 走に出場して、結果は 2 位でした。僕は練習から本番に近い走りを行い、応援をしてくれている人たちの期待に応えられるよう全力で練習に取り組みました。しかし、結果は 2 位で、自分の満足のいく走りもできませんでした。次は県大会なので、後悔のない走りをしたいです。

男子共通3000M走第 2 位 大沼斗夢さん

私は本番で、いつも通りの力が発揮できませんでした。思うように飛ばず、とても悔しい思いをしました。そんな時に応援席から、選手の皆が私に声をかけてくれて、少し気持ちが落ち着きました。これからもっと練習して、県大会で自分の実力を精一杯発揮できるように頑張ります。応援してくださった皆さん、ありがとうございました。

女子共通砲丸投げ 第 3 位 村上愛珠さん

我々応援団は 4 日間の限られた練習の中で、最高の状態に仕上げ郡陸上当日に臨みました。会場では意気揚々と全力で選手たちにエールを送り、悔いの無い最高の応援ができました。私は団長としてまだまだ未熟ではありますが、これからも熱い気持ちをもって精進していきます。

応援団長 大場謙晟さん

練習初日から「ファイトー!」「ガンバー!!」と大きな声を出し、全体の士気が高まるように頑張っていた選手たち。本番では、3 年生を中心に声をかけ合いながらアップしたり、力を出し切れるように本番に向けて気持ちをつくったりして試合に臨んでいました。本番に向かうまでに学年の枠を超えて互いに励まし合い、選手同士でも声が枯れるまで声援を送っている姿に感動しました。また、応援団からも気合いの入ったエールが届き、「チーム迫中」として一丸となっているなど感じました。監督として、生徒たちの頑張りを間近で見ることができて、心が充実した 1 日になりました。感動をありがとうございました!

女子チーム監督 矢吹 馨先生

疲労から、体調不良や怪我の多かった男子チーム。低学年リレーはメンバーが足りなく、直前まで棄権することを考えていました。そんな時に、大会 2 日前まで発熱で欠席していた、当日も調子の悪そうにしていた渡邊空哉君が「俺、走りますよ!」と言って、チームのために走ってくれた姿に感動しました。

男子チーム監督 脇坂浩明先生

選手のために、応援団一丸となって全力で応援していました。団長の謙晟君の気迫はすさまじく、最後の最後まで声を振り絞る姿には心を打たれました。他校に負けない立派な応援でした。

応援団担当 小室武史先生